

2024年2月18日

2023年度「多摩地域市民活動公募助成」事業実施報告書

団体名 みたか・みんなの広場運営協議会

代表者・役職名 氏名 成清 一夫

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

冊子「市民がつくる地域福祉(仮題)」の編集、発行、配布

2. 団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

2011年6月18日、「点から線、線から面へと、活動を展開しなければならない。」という発言に賛同した6団体が共同して国の「新しい公共モデル事業」の助成を得て活動を開始した。
2020年度以降はコロナ禍もあり、ポール・ウォーキングに加えて太極拳の活動を始めたり、認知症取組の機会ができたことから「認知症当事者のミーティング」も始めた。

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

高齢者の生活を守るために、自助は高齢であるがゆえに難しい、公助への期待も難しい。そこで、共助の体制を作る必要があるが、現在三鷹市とその周辺で福祉の各分野で活躍している皆さんへインタビューをして、それをまとめて市民もみなさまへを提供します。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

三鷹市とその周辺で、福祉の各分野で活動している方にインタビューをしてその内容をまとめて、市民に提供する。いままで、数人のインタビューを行い、メルマガとYoutubeでの配信を行ってきたが、高齢者自身には、やはりモノとしての冊子の作成が欠かすことができないと痛感しているため、今般、それを実現したい。冊子としては、四六版150ページを想定し、インタビューは7-8名の方にお願いしたい。福祉の分野も、医療や介護に偏ることなく、可能な限り、広範囲にしていきたい。

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

冊子の市民への配布はこれからになるので、結果の評価はこれからであるが、2020年に作成した「三鷹の高齢者お役立ちハンドブック」の配布は、増刷を経て現在も継続しており、わかりやすいという評価をいただいている。今回の冊子は前回以上に具体的な内容となっているので、前回以上の評価をいただけると確信している。また、活動も三鷹市内だけでなく、調布や武蔵野まで広がっているため、周辺地域での評価も期待している。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

活動の中で配布を広げることによって、賛同者を広げていきたいと考えているが、この点が一番難しいところでもある。とにかく、機会を見つけて一步一步やっていきたい。

7. 参考資料:プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等の現物またはコピー、活動状況の写真などを、「必ず」、別途、ご提供ください。